

ピリピ書1章12-26節 「生きることはキリスト」

（はじめに）

- ・さて、今日から5回に渡ってピリピ書を取り上げ、福音的なコミュニティとは一体どのようなものを学んでいきましょう。なぜなら、私たちにとってコミュニティで生きることは、無くてはならない素晴らしいことなのに、それほど易しいことではないからです。
- ・ときどき人間関係が希薄になって孤立感を深めてしまうことや、寂しくなって教会にがっかりすることがあるのではないのでしょうか。コミュニケーションの行き違いも生じます。性格の違いや物事のとらえ方の隔たりのために人間関係が難しくなったり、一悶着起きたりすることも少なくありません。
- ・しかも都市は国内外から様々な人々が入り乱れて関係が希薄になりがちです。競争意識も強く、個人主義的で孤立しやすいものです。一般的にも、都市の中で親密なコミュニティを作るのは難しく、課題が多いと言われています。クリスチャンや教会も同じ影響を受けています。

ぼくは東京都心に住んで10年になりますが、横浜から引っ越してきたときのことを忘れられません。マンションの新しい住人として、周りの方々に小さな手土産持ってご挨拶をしました。ところが、最初に管理人を訪ねたところ、「引越しの挨拶は必要ありません。こういうことはしないでください。ここでは誰もそんなことはしませんから。」と出鼻をくじかれて大ショックでした。横浜ではそんなことは言われませんでしたから…。それでも気を取り直して同じ階の方を訪ねましたが、扉を開けてくれた方は隣のお一人だけでした。

- ・皆さん、キリストの福音によってどんなコミュニティが築かれていくのでしょうか？ちょうど9月からコミュニティ・グループも再開しますので、コミグルのヴィジョンなども含めて学びましょう。

【ピリピ書1章12-26節】

- ・いつものようにメッセージの3つのポイントをまず明らかにしておきましょう。第1のポイントは、私たちのコミュニティにおける福音宣教の優先性です。聖書の中心的なメッセージであるイエス・キリストの福音を述べ伝え、分ち合うことは不可欠であり、常に優先されることなのです。
 - ・第2は、私たちの人生とコミュニティにおいて、キリストご自身が中心であることにフォーカスします。すなわちキリスト・イエスこそが私たちの生きがいのからです。そして3番目に、このように人生の優先順位が変えられ、人生の生きがいを見いだすコミュニティの秘訣についてお話ししましょう。
- ①宣教の優先、②キリスト中心、③優先順位の変化

1. 宣教の優先

- ・さてピリピ書は、使徒パウロがマケドニアにあるピリピという町の教会に紀元60年ごろ書き送った手紙です。パウロはローマの牢獄に囚人として投獄されていました。罪を犯した訳ではありません。ただキリストを述べ伝えたために投獄され、ローマ皇帝の裁判を待っていたのです。
- ・受取人であるピリピの教会は、使徒の働きによればパウロの伝道から始まったコミュニティです（AD49年ごろ）。ピリピは初代ローマ皇帝アウグストゥスによって整備された植民都市であり、マケドニア地方随一の（当時はローマ風の近代的な）都市で、多くの富を集めました。おそらくこの手紙は、ピリピ教会のコミュニティができてから、約10年後に書き送られたものでしょう。
- ・先ほど読んだテキストは、差出人であるパウロが自分の置かれた状況を克明に描いています。1章を始めから読むと分かりますが、普通の手紙の書き方のように、差出人と宛先を書き、次いで挨拶をしてから、感謝の言葉を述べて祈りをささげました。そして、いよいよ本論に入る所で、友人であるピ

リピの人たちに自分の現状を知らせます。Feeという聖書学者はこれを友情の手紙だと言っています。

ピリピ書は、パウロの他の手紙、特により論争的で弁証的なガラテヤ書や第1、第2コリント書とは対照的に、「道徳的な励ましの手紙」の特徴を兼ね備えた「友情の手紙」の特徴を反映しています。

In contrast to many of Paul's other letters, especially the more polemical and/or apologetic letters as Galatians and 1 and 2 Corinthians, Philippians reflects all the characteristics of a "letter of friendship," combined with those of a "letter of moral exhortation." (Gordon Fee, Philippians, p.2)

- ・それで、パウロは自分にとっても、友人のピリピの人たちにとっても、共通の第1の関心事を取り上げているのです。キリストにある友情関係における優先事項についてです。すなわちローマにおいてどのように福音が述べ伝えられているのか、福音宣教について優先的に取り上げたのです。
- ・パウロは投獄されていましたが、そのことによって鎖につながれた彼を見張っていた親衛隊、すなわちローマ皇帝直属のエリート兵士たちの全員がキリストの福音を聞いたのです。思いもよらないことが起こるものですね。兵士たちは4時間ごとにローテーションでパウロの見張りをしていたからです。
- ・それだけではありません。ローマの知り合いのクリスチャンたちも励まされました。パウロを間近に垣間見て、彼らも恐れることなく大胆にみことばを分かち合い、語り伝えるようになったのです。
- ・皆さん、クリスチャンのコミュニティにおける第1の関心事、優先事項とは何でしょうか。それは福音を分かち合うこと、友人たちの間でキリストを述べ伝えることです。身近な周りの人たちにキリストを紹介し、福音が分かち合われることに優先的な関心があります。宣教は教会の存在意義です！
- ・しかも、ローマにおける宣教の進展は驚くべき妨げの中で起こっていました。第1の妨げはパウロの投獄です。ローマのクリスチャンの中には、パウロが囚人であることをネガティブに受け止める人たちも少なくなかったでしょう。ましてやクリスチャンでない人たちにとって、パウロの投獄事件は、彼が述べ伝えている福音の信用を落とすことにもなりかねませんでした。
- ・さらにパウロに敵対する反対派の存在も、福音を妨げることにならなかったでしょうか。パウロの敵は不純な動機から彼を陥れようとして伝道していました。自分たちの勢力拡大のためだったのです。それにもかかわらず、キリストの福音が述べ伝えられ広められました。それでパウロは、（この言葉も驚きですが）見せ掛けであれ真実であれ、福音宣教の進展を喜んでいるとさえ言っています。
- ・パウロの投獄とローマのクリスチャンコミュニティの分裂は、宣教や伝道に大きな妨げになることに違いありません。確かに彼らのコミュニティは理想的でもなければ、健全でもありませんでした。しかし、神はそのような彼らを用いて、彼らの間で働いていたのです！
- ・グレースシティのコミュニティも理想的ではありません。弱さに満ちています。宣教の妨げになるようなこともあるでしょうか。しかし、神はそのような私たちを通してご自身を現わし、福音宣教を進めてくださるのです。それゆえに、私たちも福音の伝道、宣教に優先権を与えなければなりません。

2. キリスト中心

- ・ところで、パウロはなぜ投獄と反対者たちによるこのような悪環境の中でも、喜びをもって大胆にいられたのでしょうか？私たちはたった一人の小さな悪口を聞くだけでさえ、すぐに絶望してしまいがちではないでしょうか。パウロの喜びと力の秘密を探るために、19-20節に注目しましょう。

1:19 というわけは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の助けによって、このことが私の救いとなることを私は知っているからです。 20 それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも

恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。

- ・つまりパウロは、投獄や反対者たちの攻撃でさえも、結局は私の救いとなり、どのような状況にあろうとも、生きるにしても死ぬにしてもキリストがあがめられることになるので、大いに喜んでいるというのです。彼の人生の活力は、ついには神の救いのドラマ（＝私の救い）が成し遂げられ、キリストの栄光があらわされることなのです。ピリピ書1章6節。

1:6 あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は強く信じているのです。

- ・私たちの人生の歩みやコミュニティも、パウロの投獄やローマ教会の分裂と反対者に見られるのと同じように、不完全でたくさんの問題に満ちています。しかし、それらを通して「私の救い」は達成されるのです。もちろん逆境ですから、仲間たちの祈りと聖霊による支えがなければ、乗り越えていくことができません。しかし、神はご自身が進めている救いのドラマを必ず完成してくれるのです。
- ・パウロが言っている「私の救い」（19節）とは現代風に言い直せば、「自己実現」と言ってもいいでしょう。パウロが心から願っていることですし、そのために彼は全力を傾けています。しかし、彼の願っていることは単なる自己実現ではありません。なぜなら、20節で「生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。」と明言しているからです。キリスト中心の自己実現です。
- ・すなわち、人生の妨げとなる逆境さえ救いのドラマの一コマに組み込まれているということの意味しています。そして、投獄の末に生か死か、いずれの道が待ち受けているかは分からないのですが、父なる神はキリストの自己犠牲の福音のゆえに、必ずパウロ（私たち）の救いを達成してくださいます。
- ・それゆえ、パウロは自分の賜物も時間も命も、すべてのことをキリストの栄光のためにささげてコミットしています。それこそクリスチャンコミュニティの潜在的な力の源なのです。21節。

1:21 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。

- ・皆さん、本当の自己実現とは、キリストへの信頼と献身を通して成し遂げられる神の恵みの現われなのです！ あなたの人生のフォーカスは何でしょうか？聖書によれば、クリスチャンコミュニティのヴィジョンとは何でしょうか？一言で言い表すなら、「キリスト中心！」です。
- ・最近申命記5章32-33節を読んで「ぼくは歩いたまっすぐまっすぐ」という絵本を思い出しました。「申命記5:32 あなたがたは、あなたがたの神、【主】が命じられたとおりに守り行いなさい。右にも左にもそれではならない。33 あなたがたの神、【主】が命じられたすべての道を歩まなければならない。あなたがたが生き、しあわせになり、あなたがたが所有する地で、長く生きるためである。」「ぼくは歩いたまっすぐまっすぐ」は、子どもが小さい時に何度も何度も一緒に読んだ絵本です。急に思い出しました。
- ・おばあちゃんから電話がかかってきて、主人公の「ぼく」は一人でおばあちゃんの家に出かけます。おばあちゃんに聞いた通りに、道をまっすぐ、まっすぐ進みます。しかし途中には花畑があり、蝶の群れに出会い、野いちごを食べ、靴を脱いで小川を渡り、丘を超え、馬に驚かされ、犬に出会い、はじめて見るものにドキドキしたりビックリしたりしながら、まっすぐ、まっすぐ歩いて行くと、ついにおばあちゃんの家に着きます。
- ・あなたの人生の道はまっすぐキリストに向けられているでしょうか。私たちのコミュニティはキリストにコミットしていますか？長い道中いろいろな道草、トラブルに出くわしますが、それらのものが統合されてキリスト・イエスがあがめられるようになるのです。

3. 優先順位の変化

- ・以上のことをコミュニティ・グループに当てはめるとどうということになるのでしょうか。グレースシティでキリスト中心で宣教的な人生を歩んでいきたいと思われるなら、ぜひコミュニティ・グループに参加してください。大きな礼拝では味わえないコミュニティの恵みを経験します！
- ・コミグルは、神の真理を求めるすべての人が招かれ、イエス・キリストとの関係に入るよう励まされる宣教的な場です。コミグルでは、聖書を学び福音を分かち合います。神がイエス・キリストによって私たちとどのように和解して、救いを与えてくださったのか、聖書から互いに教え合い祈ります。
- ・そして、コミュニティ・グループの主要な目的は、キリスト・イエスの臨在と力によって、私たちの間でキリストを経験することです。つまり、私たちの日常生活がキリスト中心になり、「生きることはキリスト」と告白できるようになるために励まし合うのです。私たちが願っているのは、互いに助けられ、励まされて神を喜ばせる目的のために、キリストが御霊によって、私たちのため、また私たちを通して働いてくださることです。
- ・でも、問題がたくさん横たわっています。なぜなら生まれつきの私たち自身が、宣教を優先にする性格でもなく、「生きることはキリスト」と告白するよりも、「自己実現のために」とスローガンを掲げやすいからです。どのようにして宣教的でキリスト中心なコミュニティができるのでしょうか？
- ・今日の聖書の最後の部分でパウロがどう言っているのかに注目しましょう。彼は投獄と裁判の末に、自分がどうなるのかを思いめぐらしながら、生と死のいずれにおいても、キリストがあがめられることを望んでいます。彼にとっては世を去ってキリストともにいることの方が望ましかったのです。しかし、彼の最終的な結論は、「あなたがたのために」働きを継続することでした。24-25節。

1:24 しかし、この肉体にとどまることが、あなたがたのためには、もっと必要です。25 私はこのことを確信していますから、あなたがたの信仰の進歩と喜びのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてといっしょにいるようになることを知っています。
- ・パウロはここで人生の優先順位を変更したのです。「私の願い」(24節)から「あなたがたのための必要」(25節)に優先権を移しました。「あなたがたの信仰の前進と喜びのために」時間と賜物、労力と人生を用いようと決心しました。自分自身を明け渡すと、喜びと力を得るのです！
- ・もし皆さんがそのようにコミュニティにおいて歩いていくことを願うなら(つまり人生の優先順位を変えるなら)、人生のヴィジョンとフォーカスを新たにして生きることになるでしょう。すばらしい福音を伝え宣教のために生きる人生、生きることはキリストと告白して、明確なフォーカスとゴールを見据えた人生を歩むようになるからです。コミュニティに貢献すると、互いに助けたりサポートしたり、祈り合ったりして、ますますキリストの恵みを味わうようになります。
- ・パウロが不自由で苦しみに満ちた牢獄の中でさえ、このように優先順位を変えることができたのは、ひとえに十字架で苦しまれたイエスの恵みを味わったからです。ぜひコミグルにおいて、キリストの十字架の恵みをいつも思い起こしてください。そのために互いに励まし合いましょ。キリストはいつもあなたとともにいて、愛してくださっています。

【ピリピ書1章12-26節】

- 1:12 さて、兄弟たち。私の身に起こったことが、かえって福音を前進させることになったのを知ってもらいたいと思います。
- 1:13 私がキリストのゆえに投獄されている、ということは、親衛隊の全員と、そのほかのすべての人にも明らかになり、
- 1:14 また兄弟たちの大多数は、私が投獄されたことにより、主にあって確信を与えられ、恐れることなく、ますます大胆に神のことばを語るようになりました。
- 1:15 人々の中にはねたみや争いをもってキリストを宣べ伝える者もいますが、善意をもってする者もいます。
- 1:16 一方の人たちは愛をもってキリストを伝え、私が福音を弁証するために立てられていることを認めています、
- 1:17 他の人たちは純真な動機からではなく、党派心をもって、キリストを宣べ伝えており、投獄されている私をさらに苦しめるつもりなのです。
- 1:18 すると、どういうことになりますか。つまり、見せかけであろうとも、真実であろうとも、あらゆるしかたで、キリストが宣べ伝えられているのであって、このことを私は喜んでいきます。そうです、今からも喜ぶことでしょう。
- 1:19 というわけは、あなたがたの祈りとイエス・キリストの御霊の助けによって、このことが私の救いとなることを私は知っているからです。
- 1:20 それは私の切なる祈りと願いにかなっています。すなわち、どんな場合にも恥じることなく、いつものように今も大胆に語って、生きるにも死ぬにも私の身によって、キリストがあがめられることです。
- 1:21 私にとっては、生きることはキリスト、死ぬことも益です。
- 1:22 しかし、もしこの肉体のいのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいのか、私にはわかりません。
- 1:23 私は、その二つのもの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。実はそのほうが、はるかにまさっています。
- 1:24 しかし、この肉体にとどまるのが、あなたがたのためには、もっと必要です。
- 1:25 私はこのことを確信していますから、あなたがたの信仰の進歩と喜びとのために、私が生きながらえて、あなたがたすべてといっしょにいるようになることを知っています。
- 1:26 そうなれば、私はもう一度あなたがたのところに行けるので、私のことに関するあなたがたの誇りは、キリスト・イエスにあって増し加わるでしょう。